



トカラ列島宝島の鳥類

姉崎悟

〒487-0033 愛知県春日井市岩成台 8-3-6 510-102 E-mail: acha.anezaki@nifty.ne.jp

はじめに

宝島は、屋久島と奄美大島の間に連なるトカラ列島に属し(図1)、旧北亜区と東洋亜区
の境界で、悪石島と小宝島のあいだ(トカラ海峡)にある渡瀬線(加藤 1989)より南に位
置する生物地理学的に興味深い地域である。しかし、その鳥類相については十分に調査され
ていない。筆者は、自身が観察した記録とともに、これまでの記録を収集、整理し、現時点
で考えられる鳥類相の特徴について考察した。



図1. トカラ列島
Fig. 1. Tokara Island Chain.

1998年12月22日受理

キーワード: 鳥類相, トカラ列島, 宝島

調査地および調査方法

宝島 (29° 9'N, 129° 12'E : 図 2) は、面積 5.95km²、周囲 12.1km、最高点 291.9 m (イマキラ岳) で、北西から南東にかけて稜線がのびており、そのまわりを海岸段丘状の平地がとり巻いている。山地の大部分はタブノキ *Machilus thunbergii* 群落またはその二次林におおわれ、リュウキュウマツ *Pinus luchuensis* の二次林が点在するほか、山頂帯や急傾斜地、樹林崩壊跡地にリュウキュウチク *Pleioblastus linearis* 群落が見られる。ただし、北西に位置する女神山は、山頂部や北西斜面の急崖地にケウバメガシ *Quercus phillyraeoides f. wrightii* 群落が見られるほかは、ビロウ *Livistona chinensis* 群落におおわれている。島の北東部には砂丘が発達し、砂丘と山地のあいだには、大池、小池とよばれる 2つの池が存在する。これらの池は季節により縮小、あるいは消失することもある。海岸線は、鷲ヶ崎、大瀬崎、荒木崎に岩場が見られるほかは、平坦な隆起珊瑚礁にとり囲まれている (以上、植生は大野 1989 による)。

筆者は、1996年3月22～26日、同年8月7～16日、1997年7月18～27日、および1998年6月20～26日に宝島に滞在し (以下、各調査期間は3月、8月、7月、6月と略す)、鳥類を任意に記録した。調査の一部には本田智明氏 (7月)、宇佐見依里氏 (7月、6月) も同行した。6月の調査では、林道 (図 2) に 3km のコースを設定し、平均時速 2km で 3回歩き、両側約 25 m 以内で確認した種を記録するラインセンサスも行なった。

今回の記録と、既存の文献による記録、すなわち清棲 (1978)、迫・永徳 (1986)、鹿児島

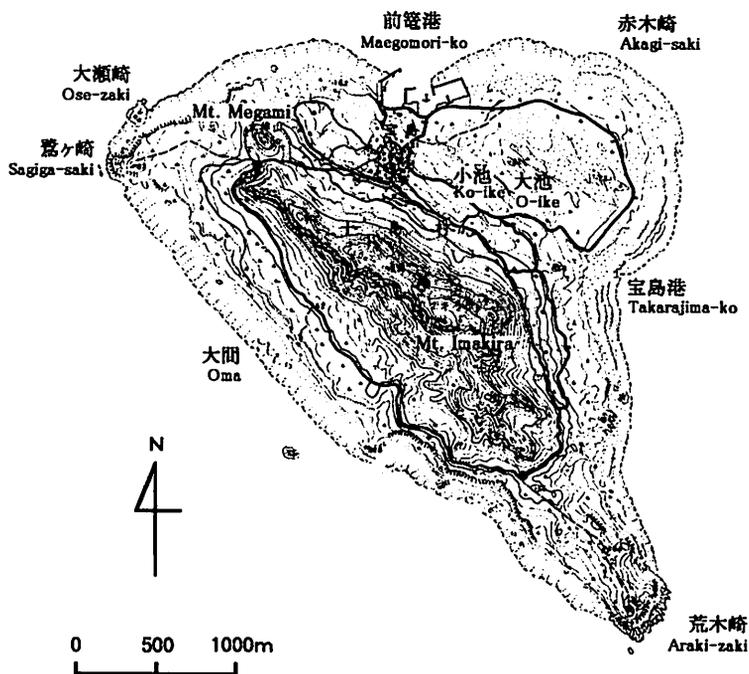


図 2. 宝島。実線はラインセンサスのコース。

Fig. 2. Takarajima Island. Bold line shows the route of line censuses.

県環境保健部環境管理課（1987）、迫（1991）、大沢・大沢（1995）および鹿児島大学野鳥研究会（1996）、さらに私信による未発表記録を整理し、月ごとの分布状況を表にまとめた。また、トカラ各島の記録（上記のほか、Hanawa & Tobai 1994、森田 1995、ただし森田は、氏自身の観察記録に限る）と比較し、宝島の鳥類相の特徴について考察した。なお、鹿児島県環境保健部環境管理課（1987）、迫（1991）における宝島の記録には時期がはっきりしないものもみられるため、それらの記録は無視した。また、1984年の記録は基本的に迫・永徳（1986）を引用したものであるため、無視した。迫（1991）は、記録を列記した目録のほかに一覽表も示しているが、そのあいだに食い違いがみられる場合は、基本的に目録の方を正しい記録とみなした。ただし、ノゴマ *Luscinia calliope* の記録は他文献と食い違いがみられるので、無視した。また、目録において記録の一部ないし全てが欠落しているウミウ、コシアカツバメ、ハシブトガラス、さらに目録のほうに明らかな誤記がみられるツバメ、キセキレイ、ハクセキレイは、一覽表のほうを正しい記録とみなした。

結果および考察

現地調査で確認された鳥類

3月に44種、8月に17種、7月に21種、6月に27種を確認し、計59種（ドバトを含む）を記録した（表1）。うち7種は、宝島初記録となった。

夏期に記録した計37種のうち、クロサギについてはすでに繁殖（巣卵、ヒナ）が確認されている（迫・永徳 1986）。今回の調査ではハシブトガラスしか繁殖（幼鳥）を確認できなかったが、6月の林道のラインセンサスでズアカアオバト、アカショウビン、メジロが優占的にみられ（表2）、3種ともさえずりを確認したほか、ズアカアオバトはつがいを、さらにサンコウチョウについては雄成鳥とさえずりを確認したので、これら4種は繁殖している可能性が高い。留鳥と考えられるカラスバトは、夏期は目立たなかったが、3月に至るところで鳴き声を聞いており、夏期よりも春期に繁殖行動が活発になると思われた。同じく留鳥と考えられるイソヒヨドリは、3月および8月には前箆港などで普通にみられ、7月に大間～前箆港～荒木崎を調査した際には大瀬崎で雌1羽、荒木崎で数羽とさえずりを確認したが、6月に大瀬崎～前箆港～宝島港を調査した際には確認できなかった。これはおそらく、荒木崎など岩場の多い環境で局所的に繁殖しているためであろう。シロチドリは、島民が赤木崎および大間で5月初旬にチドリ類のヒナを確認しており（宇佐見 私信）、これらの場所で夏期にシロチドリが少なくないことを考えると、宝島でも繁殖しているものと推察される。ただし筆者は、幼鳥を確認できなかった。ヒヨドリは、全国的に普通種であるが、宝島では3月に2羽、7月および8月に1羽ずつしか確認できず、繁殖している可能性は極めて低いと思われた。このほか、ゴイサギ、ミサゴ、ホトトギスはトカラ列島で繁殖するとされ（森岡 1990）、コアジサシ、ヒメアマツバメ、アマツバメおよびツバメは奄美諸島で繁殖例があるが（日本鳥学会 1974、奄美野鳥の会 1997）、今回宝島において、繁殖の可能性は見出せなかった。以上より、クロサギ、シロチドリ、カラスバト、ズアカアオバト、アカショウビン、

表 1. 現地調査で確認された鳥類
Table 1. Birds recorded in the present survey.

種名 Japanese name	学名 Scientific name	確認状況 Occurrence				備考 Notes
		1996.3	1996.8	1997.7	1998.6	
ウミク	<i>Phalacrocorax capillatus</i>	○				
コイナキ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○	○	○	○	
アカカシラナキ	<i>Ardeola bacchus</i>				△	
アマナキ	<i>Bubulcus ibis</i>	○	○			
タイナキ	<i>Egretta alba</i>	○			○	
チュウナキ	<i>Egretta intermedia</i>				○	
コナキ	<i>Egretta garzetta</i>	○		○		
カラシラナキ	<i>E. euphotes</i>				○	
クロナキ	<i>E. sacra</i>			○		
アサナキ	<i>Ardea cinerea</i>	○			○	
オシトリ	<i>Aix galericulata</i>	○				
カシカモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	○				
オカヨシカモ	<i>A. strepera</i>	○				
ヒトリカモ	<i>A. penelope</i>	○				
ミナコ	<i>Pandion haliaetus</i>	○		○		
トビ	<i>Milvus migrans</i>	○				
ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○				
チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○				
コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	○		○		
シロチドリ	<i>C. alexandrinus</i>	○	○	○	○	
ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	○				
キウウヨシキ	<i>Arenaria interpres</i>			○	○	
カシキ	<i>Tringa erythropus</i>	○				
クサシキ	<i>T. ochropus</i>					
タカアシキ	<i>T. glareola</i>	○	○			
キアシシキ	<i>Heteroscelus brevipes</i>			○	△	
イソシキ	<i>Actitis hypoleucos</i>		○	○		
ツリハシシキ	<i>Xenus cinereus</i>	○			○	
ヤマシキ	<i>Scolopax rusticola</i>	○				
クサシキ	<i>Gallinago gallinago</i>	○				
ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>			○		
ハシロクロハラアシナギサ	<i>Chlidonias leucopterus</i>				○	
コアシナギサ	<i>Sterna albifrons</i>		○			台風通過直後に1羽飛来
カラスハト	<i>Columba janthina</i>	○	○	○	○	
スズカサハト	<i>Sphenurus formosae</i>	○	○	○	○	
ホトケス	<i>Cuculus poliocephalus</i>				○	さえずりのみ確認
ヒメアマツハメ	<i>Apus affinis</i>				○	
アマツハメ	<i>A. pacificus</i>			○	○	
アカショウビ	<i>Halcyon coromanda</i>		○	○	○	
ヤブカシラ	<i>Upupa epops</i>	○	○			
ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○				
ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○	○	○	○	
キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○	○		△	
ハウセキレイ	<i>M. alba</i>	○				亜種 <i>leucopsis</i> あり
ムネアカクサビ	<i>Anthus cervinus</i>	○				
ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○		
キレンジヤク	<i>Bombycilla garrulus</i>	○				
ヒレンジヤク	<i>B. japonica</i>	○				
シヨウビ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	○				
イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○	○	○		
ウケイ	<i>Cettia diphone</i>	○				
サンコウチヨウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>		○	○	○	
ミンロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○	○	○	
カシラカ	<i>Emberiza rustica</i>	○				
アサギ	<i>E. spodocephala</i>	○				
ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	○			○	
ミヤマガラス	<i>Corvus frugilegus</i>	○				
ハシラカ	<i>C. macrorhynchos</i>	○	○	○	○	幼鳥確認
カワラハト	<i>Columba livia</i>	○			○	
総計 Total	26 families 59 species	44	17	21	27	

* : 宝島初記録。Recorded for the first time on Takarajima Island.

△ : 同行者 (宇佐見) による確認。Recorded by E.Usami.

表 2. 林道でのラインセンサス結果 (個体数, 優占度, 1 時間当たりの密度)

Table 2. Species, numbers, relative abundance (RA, %) and density recorded by line censuses on Takarajima.

種名	6/23 15:20-16:50			6/24 9:50-11:20			6/25 6:00-7:30			総個体数 Total		
	No.	RA	No./hr	No.	RA	No./hr	No.	RA	No./hr	No.	RA	No./hr
メジロ <i>Zosterops japonicus</i>	8	32	5.33	23	51	15.33	7	18	4.67	38	35	8.44
アカショウビン <i>Halcyon coromanda</i>	8	32	5.33	12	27	8.00	13	34	8.67	33	31	7.33
スズアカアオバト <i>Sphenurus formosae</i>	7	28	4.67	6	13	4.00	12	32	8.00	25	23	5.56
サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i>	1	4	0.67	3	7	2.00	2	5	1.33	6	6	1.33
ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>							4	11	2.67	4	4	0.89
アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	1	4	0.67							1	1	0.22
ガラスバト <i>Columba janthina</i>				1	2	0.67				1	1	0.22
種数 Number of species	5			5			5			7		
個体数 Number of individuals	25			45			38			108		

イソヒヨドリ, サンコウチョウ, メジロおよびハシブトガラスの 9 種が宝島で繁殖するものと推察されたが, クロサギ, ハシブトガラス以外については, 今後巣卵, 幼鳥などの確認が必要である。

シロチドリを除く 8 種は, トカラ列島のほぼ全域で繁殖するものと考えられ, このうちズアカアオバト, アカショウビン, サンコウチョウは奄美諸島側, メジロ, ハシブトガラスは本土・屋久島側からトカラ列島に侵入し, 定着したものと考えられている (森岡 1990)。ただし, メジロ, ハシブトガラスが本土・屋久島側起源とみなされるのは, 中之島, 悪石島などの標本が本土・屋久島側の亜種と一致したためであり (森岡 1990), 宝島産の個体についてはまだ検討されていない。筆者が観察した限りでは, 宝島のメジロは小型で脇腹が灰色味を帯びるなど, 大半が奄美・沖縄・先島諸島に分布する亜種リュウキュウメジロ *Z. j. loochoensis* (日本鳥学会 1974) に酷似し, 少なくとも悪石島産個体 (1996 年 8 月観察) とは異なる印象を受けた。また, 悪石島と宝島のあいだに位置する小宝島ではメジロが夏期に通常みられないので (1998 年 6 月の筆者調査による。島民によると, 春期に群れが通過するらしい), メジロの繁殖分布はトカラ海峡周辺 (渡瀬線) で途切れているといえる。このことから, 宝島のメジロは奄美諸島側に由来することが示唆されるが, 8 月の調査では脇腹がわずかにブドウ色を帯びた個体も数羽観察されたので, より詳しい調査を行なう必要があるだろう。なお, 迫・永徳 (1986) は島民の情報から, 宝島ではメジロが夏期にまったくみられず, 繁殖もしないと述べている。これが事実ならば, メジロの繁殖が宝島に定着したのはごく最近ということになり, 興味深い。一方のハシブトガラスについては亜種を確認できておらず, メジロ同様, 詳しい調査が望まれる。

宝島の鳥類相について

今回の記録と過去の記録をまとめたものを付表に示した。これにより, 宝島ではこれまで 137 種 (ドバトを含む) が記録されていることが明らかとなった。このほか, 記録時期不明の種としてウズラ *Coturnix japonica*, カッコウ *Cuculus canorus*, ヨタカ *Caprimulgus indicus*, ブッポウソウ *Eurystomus orientalis*, ヤイロチョウ *Pitta brachyura*, ミソサザイ *Troglodytes*

troglodytes, コマドリ *Erithacus akahige*, ノゴマ, ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*, マミジロ *Turdus sibiricus*, クロツグミ *T. cardis*, キクイタダキ *Regulus regulus*, キビタキ *Ficedula narcissina*, オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*, サメビタキ *Muscicapa sibirica*, ホオアカ *Emberiza fucata* およびオオジュリン *Emberiza schoeniclus* がある (迫・永徳 1986). このうち、トカラ列島において宝島だけで記録があるのは、ナベヅル, ミユビシギ, セグロカモメ, アジサシ, コアジサシ, カンムリカッコウおよびハシボソガラスの 7 種であるが, いずれも 3 回以上記録されたことはないので, 宝島に偶然迷行したものであると考えられる. ほかに宝島の鳥類相の特徴としては, シロチドリが周年みられることが挙げられる. 列島内において, 宝島以外では夏期 (8 月下旬は除く) の記録がみられないが, 先にも述べたように宝島では夏期に少なくない. 隆起珊瑚礁による平坦な海岸や, その内側に広がる砂浜など, 宝島特有の海岸地形が, シロチドリにとって好適な生息環境になっているものと思われる.

なお, トカラ列島で繁殖が確認されているアカヒゲ *Erithacus komadori* (中之島, 平島, 諏訪之瀬島で繁殖確認/ほかに口之島, 悪石島で夏期に記録がある. 以下同様), イイジマムシクイ *Phylloscopus ijimae* (中之島/諏訪之瀬島, 悪石島), ヤマガラ *Parus varius* (中之島/口之島, 諏訪之瀬島, 悪石島) の 3 種は, 宝島においてまったく記録がない. ただしアカヒゲについては, 笹森 (1968) が宝島での生息を記しており, 繁殖期以外に通過しているか (同じく記録のない小宝島では, 島民によると渡りの時期にみられるらしい), かつて繁殖していた可能性がある. 同じくトカラ列島で繁殖が確認されているサンショウクイ (中之島/口之島, 諏訪之瀬島), モズ (中之島/平島), アカコッコ (中之島, 平島, 諏訪之瀬島/口之島, 悪石島), ウグイス (中之島, 諏訪之瀬島/口之島, 平島, 悪石島) およびセッカ (諏訪之瀬島/口之島, 中之島, 平島, 悪石島) の 5 種は, 宝島で記録があるものの, 夏期に記録されたことはない. ヒヨドリ (諏訪之瀬島/口之島, 中之島, 平島, 悪石島) も, 夏期は今回の記録があるのみである (以上, 繁殖記録は Higuchi & Kawaji 1989, 川路・樋口 1989, Kawaji *et al.* 1989, 森岡 1990, Hanawa & Tobai 1994 による). このように, 宝島は他島 (小宝島や無人島は除く) に比べ, 繁殖する陸鳥の種数が少ないという特徴も認められる. 森岡 (1990) は, 1989 年の夏期にトカラ列島を調査し (宝島は 8 月中旬の 2 日間), ホトトギス, ヒヨドリ, ウグイスが宝島でも繁殖すると示したほか (巣卵や幼鳥は未確認), 「おそらく各島ともヒヨドリとウグイスの生息密度がいちばん高いと考えられる」と述べている. これが事実ならば, この 10 年ほどのあいだに宝島における 3 種の生息状況は大きく変化したことになるが, 森岡が調査した 1989 年以降に島内で大規模な環境変化が起きた形跡はなく, それより前の 1987 年 8 月の時点でこれら 3 種が記録されていないこと (迫 1991) を考えると, 3 種とも, 1989 年当時から宝島では繁殖していなかったものと思われる.

繁殖する陸鳥の種数が少ない原因は明らかでない. おそらく, 定着できずにいる各種ごとに様々な要因がかかわっているものと思われるが, その要因を解明するためには, 今後植生などの環境条件や地史など, 様々な要素をトカラ各島や奄美諸島と比較することが重要であろう.

最後に非繁殖種について、最近10年間（1988年以降）のトカラ各島の記録をみると、オオジシギ *Gallinago hardwickii*、ノゴマ、ルリビタキ、ヤブサメ *Urosphena squameiceps*、キビタキおよびノジコは小宝島を含む4島以上で、サメビタキは横当島を含む4島以上で記録されているが、小宝島と横当島のあいだに位置する宝島では記録がない（オオジシギとヤブサメは、1987年以前においても宝島では記録がない）。特にルリビタキは、小宝島以北の6島（口之島、中之島、臥蛇島、平島、悪石島、小宝島）で記録されているのに、宝島で記録がないのは興味深い。ただし、これらが記録されなかったのは単に調査不足のせいだとも考えられる。今後、記録の乏しい秋冬期を中心に、さらなる調査の充実が望まれる。

謝 辞

元鹿児島大学野鳥研究会の所崎聡、守屋年史の両氏には、重要な資料を提供いただいたほか、多くの助言をいただいた。上野信一郎、大沢夕志、大沢啓子の各氏には、宝島での観察記録を提供いただいた。現地調査にあたっては、宇佐見依里、本田智明、松岡裕美の各氏、浜坂荘の皆さん、および家族に多大な協力をいただいた。これらの方々に厚く御礼申し上げる。

要 約

1996年から1998年にかけて4回、トカラ列島宝島を訪れ、59種（ドバトを含む）を記録した。うち7種は宝島初記録となった。クロサギ、シロチドリ、カラスバト、ズアカアオバト、アカショウビン、イソヒヨドリ、サンコウチョウ、メジロおよびハシブトガラスの9種は、宝島で繁殖するものと思われた。メジロは、亜種リュウキュウメジロであることが示唆された。

これまでの記録をまとめると、宝島では137種が記録されていることが分かった。このうち、トカラ列島において宝島でしか記録がないものは7種あるが、これらは偶然迷行してきたものであると思われた。宝島ではシロチドリが周年みられるが、これも、トカラ列島では宝島だけの特徴である。また、繁殖する陸鳥の種数が他島（小宝島や無人島は除く）よりも少ないという特徴も認められた。

引用文献

- 奄美野鳥の会(編). 1997. 図鑑 奄美の野鳥. 奄美野鳥の会, 名瀬.
- Hanawa, S. & Tobai, S. 1994. Bird Survey of Yokoate-jima and Suwanose-jima, Tokara Islands. WWF Japan Science Report 2(2): 187-197.
- Higuchi, H. & Kawaji, N. 1989. Ijima' s Willow Warbler *Phylloscopus ijimae* of the Tokara Islands, a New Breeding Locality, in Southwest Japan. Bull. Biogeogr. Soc. Japan 44: 11-15.
- 鹿児島大学野鳥研究会. 1996. 南西諸島トカラ列島における鳥相 (WWFJ 95年度南西諸島自然保護特別事業報告書: 十島村の小中学校に配布).
- 鹿児島県保健環境部環境管理課(編). 1987. 鹿児島県の野鳥. 鹿児島県公害防止協会, 鹿児島.
- 加藤祐三. 1989. 地質学からみた渡瀬線. 日本の生物 3(1): 14-18.

- 川路則友・樋口広芳. 1989. アカヒゲ *Erithacus komadori* の分布ならびに亜種の問題について. 昭和63年度特殊鳥類調査. pp. 71-88. 環境庁, 東京.
- Kawaji, N., Higuchi, H. & Hori, H. 1989. A new breeding record of the Izu Island Thrush *Turdus celaenops* from the Tokara Islands, southwest Japan. Bull. British Ornithologists Club 109(2): 93-95.
- 清棲幸保. 1978. 増補改訂版 日本鳥類大図鑑Ⅱ. 講談社, 東京.
- 森岡弘之. 1990. トカラ列島の繁殖鳥類とその起源. 国立科学博物館専報 (23):151-166.
- 森田忠義. 1995. 脊椎動物. 十島村誌. pp. 147-187. 十島村, 鹿児島.
- 日本鳥学会. 1974. 日本鳥類目録. 学習研究社, 東京.
- 大野照好. 1989. トカラ列島の植生. 日本植生誌 沖縄・小笠原. pp. 507-512. 至文堂, 東京.
- 大沢夕志・大沢啓子. 1995. オオコウモリの飛ぶ島. 山と溪谷社, 東京.
- 迫静男. 1991. トカラ列島の鳥相. トカラ列島学術調査報告書. pp. 118-166. 鹿児島県, 鹿児島.
- 迫静男・永徳亨. 1986. 宝島の鳥類. 宝島自然環境調査報告書2-2. pp. 7-24. 鹿児島県, 鹿児島.
- 笹森儀助. 1968. 拾島状況録. 日本庶民生活史料集成 第一巻. pp. 117-300. 三一書房, 東京.

Avifauna of Takarajima Island, Tokara Island chain

Satoru Anezaki

510-102 8-3-6 Iwanaridai Kasugai-shi, Aichi 487-0033

The birds on Takarajima Island (29° N, 129° E) in the Tokara Islands chain, Kagoshima Prefecture, were observed in the spring and summer seasons from 1996 to 1998. Line censuses and additional surveys recorded 59 bird species, (including Domestic Pigeon *Columba livia*), seven of which were new records, and nine species seemed to breed on the island. The local population of Japanese White-eye *Zosterops japonicus* on the island was thought by the plumage color to be subspecies *lochooensis*.

A review of the past records revealed a total of 137 species on Takarajima Island. Since seven of the species recorded only on Takarajima Island had never been recorded on the other islands of the Tokara Island chain, they are thought to be accidental arrivals. Snowy Plover *Charadrius alexandrinus* is a year round resident only on this island. The number of breeding land bird species on the island is less than that on the other islands in the Tokara Island chain except for the smaller islands such as Kodakarajima, and uninhabited islands.

Key words: avifauna, Takarajima Island, Tokara Islands Chain

付表. 宝島産鳥類目録
Appendix. List of birds of Takarajima Island.

種名 Japanese name	学名 Scientific name	月毎の分布状況 Occurrence												備考 Notes
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
オオソリ	<i>Calonectris leucomelas</i>					c	a							
カササギ	<i>Sula leucogaster</i>						c					d	ほかにa	
ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>	△		○			c					d		
オシロイ	<i>Botaurus stelleri</i>						c						88.4.30: 1羽 (大池付近)	
オシロイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>											△	89.12.28	
オシロイ	<i>I. flavicollis</i>							d					93.5.31: 1羽 [93.6.21付南日本新聞]	
オシロイ	<i>Gorsachius gotsagi</i>			c	○	○								
オシロイ	<i>Nycticorax nycticorax</i>			○	○	○	○	○	○			d		
オシロイ	<i>Butorides striatus</i>				○	c							89以降記録がない	
オシロイ	<i>Ardeola bacchus</i>					c								
オシロイ	<i>Bubulcus ibis</i>			○	○	○	○	○	○			d	d	
オシロイ	<i>Egretta alba</i>			○	○	○	○	○	○			d	d	
オシロイ	<i>E. intermedia</i>			○	○	c	○	○	○			d	d	
オシロイ	<i>E. garzetta</i>			○	○	○	○	○	○			d	d	
オシロイ	<i>E. culophotes</i>					c	○	○	○					
オシロイ	<i>E. sacra</i>			○	○	○	○	○	○			d	d ○ 繁殖 [a]	
オシロイ	<i>Ardea cinerea</i>			○	○	c	○	○	○			d		
オシロイ	<i>Aix galericulata</i>			●									96.3.25: 1羽 (小池)	
オシロイ	<i>Anas platyrhynchos</i>			d									93.3.14~21 / ほかにa, b	
オシロイ	<i>A. poecilorhyncha</i>			○									96.3.25: 3羽 (小池) / ほかにa	
オシロイ	<i>A. crecca</i>			d									△ ほかにa	
オシロイ	<i>A. strepera</i>			○										
オシロイ	<i>A. penelope</i>			●									96.3.23~25: 1羽 (小池)	
オシロイ	<i>A. acuta</i>			d								d		
オシロイ	<i>A. clypeata</i>			d									93.3.21: 1羽 (赤木崎)	
オシロイ	<i>Pandion haliaetus</i>			○	○	△			○	d	d	△		
オシロイ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>								c				'87.8.22~26	
オシロイ	<i>Milvus migrans</i>			○		a	a							
オシロイ	<i>Accipiter soloensis</i>					△							97.5.17: 3羽	
オシロイ	<i>A. gularis</i>					c	c					d	ほかにa	
オシロイ	<i>A. nisus</i>					c			d	d		d		
オシロイ	<i>Buteo buteo</i>					○						d	△	
オシロイ	<i>Bulastur indicus</i>			△		○	○	c				d	d	
オシロイ	<i>Falco peregrinus</i>			△								d	d	
オシロイ	<i>F. subbuteo</i>											d	d	
オシロイ	<i>F. tinnunculus</i>					○						d	d	
オシロイ	<i>Grus monacha</i>					a							79.3.15~19: 12羽	
オシロイ	<i>Amaurornis phoenicurus</i>							d					96.4.24~28: 1羽 (大池付近)	
オシロイ	<i>Gallinula chloropus</i>							a						
オシロイ	<i>Fulica atra</i>												(1970年頃, 1落鳥 [c])	
オシロイ	<i>Charadrius dubius</i>					○	c	c	○	○		d	d	
オシロイ	<i>C. alexandrinus</i>			△		○	○	○	○	○		d	d	
オシロイ	<i>C. mongolus</i>			△		○	○	○	○	○		d		
オシロイ	<i>C. leschenaultii</i>							d					96.4.24~28	
オシロイ	<i>Pluvialis fulva</i>			△		○	○	○		c		d	d	
オシロイ	<i>P. squatarola</i>					d	d					d		
オシロイ	<i>Vanellus vanellus</i>							c					88.3.25~26: 2羽	
オシロイ	<i>Arenaria interpres</i>			△		d	○	○	○			d	d	
オシロイ	<i>Calidris temminckii</i>							c					88.3.24: 2冬	
オシロイ	<i>C. acuminata</i>											d	91.10.6~14	
オシロイ	<i>C. alpina</i>			△		d	d					d		
オシロイ	<i>Croceithia alba</i>											○		
オシロイ	<i>Tringa erythropus</i>					●							96.3.23~26: 1冬 (集落付近水田)	
オシロイ	<i>T. nebularia</i>							c	c				88.4.28~5.4: 1羽 (前庭港海岸)	
オシロイ	<i>T. ochropus</i>					○	○	c						
オシロイ	<i>T. glareola</i>					○	○	c	○	○		d		
オシロイ	<i>Heteroscelus brevipes</i>					○	○	c	○	○		d		
オシロイ	<i>Actitis hypoleucos</i>					○	○	c	○	○		d		
オシロイ	<i>Xenus cinereus</i>					●							96.3.22: 2羽(集落付近水田)/96.6.24: 1羽(赤木崎)	
オシロイ	<i>Limosa lapponica</i>							c	c				88.4.28~5.4: 1羽 (鷺ヶ崎)	
オシロイ	<i>Numenius arquata</i>							△					97.5.18: 2羽	
オシロイ	<i>N. phaeopus</i>							○				d		
オシロイ	<i>Scolopax rusticola</i>					○						d	d	
オシロイ	<i>Gallinago gallinago</i>					○	d							
オシロイ	<i>Himantopus himantopus</i>					○	d							
オシロイ	<i>Glareola maldivarum</i>					○	○							
オシロイ	<i>Larus argentatus</i>					○								
オシロイ	<i>L. crassirostris</i>					○								
オシロイ	<i>Chlidonias leucopterus</i>												98.6.21: 1羽 (ヘリポート付近草地)	
オシロイ	<i>Sterna hirundo</i>												ほかにa	
オシロイ	<i>S. albifrons</i>													
オシロイ	<i>Columba janthina</i>					○	a	○	○	○		d		
オシロイ	<i>Streptopelia orientalis</i>					○	○	○	○	○		d		
オシロイ	<i>Sphenurus formosae</i>					○	○	○	○	○				
オシロイ	<i>Cuculus poliocephalus</i>							△	○				ほかにa	
オシロイ	<i>Clamator coromandus</i>							a					74.5.11: 1羽 (小中学校)	
オシロイ	<i>Hirundapus caudacutus</i>							△					97.5.17: 3+羽	
オシロイ	<i>Apus affinis</i>							△	○					
オシロイ	<i>A. pacificus</i>					d	○	○	○	○		d		

付表. 続き
Appendix. Continued.

種名 Japanese name	学名 Scientific name	月毎の分布状況 Occurrence											備考 Notes			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		12		
アサヨウビツ	<i>Halcyon coromanda</i>					c	△	●	◎	◎						88.5.1: 1羽 (前港)
カササギ	<i>Alcedo althis</i>							c								
ヤマガシラ	<i>Upupa epops</i>					◎				◎						
ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	△			a										d	
ショウドウカバ	<i>Riparia riparia</i>					◎	△									97.5.17: 5+羽
カハ	<i>Hirundo rustica</i>					◎	◎	●	●	◎					d	
リュウキュウカハ	<i>H. tahitica</i>									d	d					95.7.29 ~ 8.3 (イマキラ岳山頂)
ゴシヤカハ	<i>H. daurica</i>						◎	◎						d		
イワカハ	<i>Delichon urbica</i>					◎	d	△								
アサギ	<i>Motacilla flava</i>					c	c	◎								
キヌキ	<i>M. cinerea</i>					◎	◎	◎	●	◎	◎			d	d	
ハクキ	<i>M. alba</i>					◎		c						d	d	◎
マシロヒバリ	<i>Anthus novaeseelandiae</i>					d	◎	c								
ビソズイ	<i>A. hodgsoni</i>					◎	d	△							d	△
ムネアカヒバリ	<i>A. cervinus</i>					◎	c	c								
クビ	<i>A. spinoletta</i>					d	c	c							d	
オシロイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>					d	◎	◎								
ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>					◎	◎									△
スズ	<i>Lanius bucephalus</i>					d										△ ほかにa
キレンシヤク	<i>Bombycilla garrulus</i>					●										96.3.23 ~ 26: 1羽 (集落, 集落付近耕地)
ヒレンシヤク	<i>B. japonica</i>					◎	b									
シヨウビツキ	<i>Phoenicurus aureus</i>					◎									d	
ルビツキ	<i>Saxicola torquata</i>					c	◎								d	
イノヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>					◎	◎	c		◎	◎				d	d
トウワクミ	<i>Zoothera dauma</i>															△ 89.12.28: 2羽 / ほかにa
ウロウロ	<i>Turdus merula</i>					d										93.3.21: ♂1
アカウ	<i>T. chrysolaus</i>					d	c	c								ほかにa
アカコ	<i>T. celaenops</i>					◎										
シロウ	<i>T. pallidus</i>	△				◎	a									△
マシヤシ	<i>T. obscurus</i>					d										93.3.14 ~ 21
ナクミ	<i>T. naumanni</i>					◎										△
ウカ	<i>Cettia diphone</i>					◎	◎								d	△
オシロイ	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>					c	c									88.4.28 ~ 5.4 (前港港東側海岸)
セウ	<i>Cisticola juncidis</i>					d										96.4.24 ~ 28
ウシロ	<i>Ficedula parva</i>					c	c									88.4.28 ~ 5.4: ♀1 (赤木崎)
エビ	<i>Muscicapa griseisticta</i>						△								d	
コサ	<i>M. dauurica</i>						△								d	
オシロイ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>							◎	◎	◎						ほかにa
シロ	<i>Zosterops japonicus</i>					◎	◎	◎	●	◎	◎				d	d
オシロイ	<i>Emberiza cioides</i>					◎										△
コサ	<i>E. pusilla</i>					d	c	c							b	
キヌキ	<i>E. chrysophrys</i>					c	c									88.4.28 ~ 5.4: ♂1 (赤木崎)
カサ	<i>E. rustica</i>					◎	d									
シヤ	<i>E. elegans</i>					◎									d	△
シヤ	<i>E. aureola</i>						c	c								88.4.28 ~ 5.4: 7羽
シヤ	<i>E. rutilla</i>							△								97.5.16 ~ 17: ♂2 ♀1
シヤ	<i>E. sulphurata</i>						a									84.4.30
アサ	<i>E. spodocephala</i>					◎	c	c								△
アサ	<i>Calcarius lapponicus</i>					d										96.3.12: ♂冬1 (北部牧場)
アサ	<i>Fringilla montifringilla</i>					c										d
イサ	<i>Eophona personata</i>					b										
キヌキ	<i>Sturnus sericeus</i>					c										d
コム	<i>S. philippensis</i>							◎								
ムク	<i>S. cineraceus</i>					◎	a	a	●							d
ミヤ	<i>Corvus frugilegus</i>							●								96.3.23 ~ 24: 3羽 (ヘビト付近草地, 大間 ~ 荒木崎)
ハク	<i>C. corone</i>					c										88.3.24 ~ 25: 1羽
ハク	<i>C. macrorhynchos</i>					◎	◎	◎	◎	◎				d	d	△ 繁殖 [著者が幼鳥確認]
カワ	<i>Columba livia</i>					●				d	d					△
総計 Total	35 families 137 species	11	0	87	74	71	27	29	30	0	26	41	21			

a: 迫・永徳 (1986)
 b: 鹿児島県保健環境部環境管理課 (1987)
 c: 迫 (1991)
 d: 鹿児島大学野鳥研究会 (1996)
 △: 私信による (大沢夕志・啓子: 1989.12.28 ~ 1990.1.5 / 上野信一郎: 1997.5.16 ~ 18)
 Recorded by Y. Osawa & K. Osawa (1989.12.28-1990.1.5) and S.Ueno (1997.5.16-18).
 ●: 今回の調査で確認 (宇佐見の記録を含む). Recorded in the present survey.
 ◎: 複数文献 (私信・著者記録含む) による. Recorded in more than two surveys.